
世界の終末は何処からともなく...

elsto_rei

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

世界の終末は何処からともなく…

【Nコード】

N4487R

【作者名】

elstori rei

【あらすじ】

高校生カイが異世界に飛ばされてその世界の人達と協力して世界を救っちゃったりするそんなお話。

2週に一回くらいのペースで上げていきたいなあと考えています。

1話　く前書く始まりは何処からともなく…（前書き）

この小説は作者の自己満足のためのものです
不定期連載です。そして文章もグダグダです。
誤字脱字などありましたらコメントしてください。

1話　く前書く始まりは何処からともなく…

そつ、これは始まりであり。終わりである。そんな話

『現世』

く雨宮私立高等学校く「カイスィde」

カイ「おい、そつちにはあつたか？」

レイ「いや、全然、見つかりそうもない…諦めるかな…」

カイ「まだやろうぜ」

レイ「いや、そろそろ時間だ」

二人は学校で某アクションゲームをしていた

ガラガラく

アリス「もう、まだやってたの」

レイ「いや、今終わった所」

なるほどな…

カイ「じゃあな。お熱い御二人さん」

レイ「おいおい、妬むなよ。何処いく？」

? 2 「いえ、出来ますよ、彼なら…ね、レイ…」

レイ「あいつならきっと…やり遂げる…さ…」

1話　く前書く始まりは何処からともなく…（後書き）

こんな感じの物語ですが気になった事があつたりしたら感想をどんどんください。

2話 く本書く異世界は波乱ばかり（前編）

きつとこれは夢なのだろう、夢であって欲しい

『異世界』

く???? 「カイside」

…ここは？

カイ「いてて…」

「ここはどこだ？」

一体おれに何があつたんだ…？

？「ここはダルカマイズン国です。」

カイ「ダルカマイズン？何処だ？てかあんた誰？」

？「私はライヤです。あなたがそんな反応を取るのも無理は無いでしょう」

カイ「ライヤさんね…」

ライヤ「ここはあなたが住んでいた世界とは違う世界、ザ、イレイスンのダルカマイズン王国の首都です。」

カイ「って、わかりやすく言われたけど、要するに…異世界のどっかの国の首都ね。」

「て、ええええええええ！」

「つか、帰れるんだろうな！」

ライヤ「…それが…帰り方は良く分からないんですよ…」

カイ「はあ…そうですか…て、なるか普通？」

ライヤ「そこで、あなたには世界を救ってもらいたいですよ」

カイ「はあ？世界を救え？どうやって？なんの力もないのに？ふざけてるのか？」

ライヤ「いえ、ふざけてはいません。まあ救うといってもこの国ですけどね。」

カイ「国一つ救うのも無理だったの」

ライヤ「では、詳しい話は国王から聞いてください」

カイ「へー、無視ですか…そうですか…いいですよーグレちゃうし…」

ライヤ「国王は今、気が荒れていますので無礼な真似はしないでくださいね」

「あなたが死にますから」

カイ「……………」冗談だろ…？」

ライヤ「いえ、「冗談ではありませんすべて本当の事です。」

「では、逝きましよう」

カイ「なあ、文字違うくね？」

ライヤ「いいから行きましょう」

カイ「良くねえよ、俺にとっては死活問題だよ！」

「ダルカマイズン国・王の間」〔カイス side〕

王「お主がこの国を救う勇者で間違いないな？」

カイ「え…別に俺は勇者とかそんな大層な者じゃないです。」

王「ライヤ！我は勇者を呼べと言ったはずだが？」

ライヤ「彼が謙遜しているだけですよ、王。」

王「そうか…ならいい。どんな力があるのだ？」

カイ「だから、勇者じゃないし、力もないんだって」

王「そうか…死にたいのか…仕方ないこの者を戦いの前線に立たせよ」

「勇者なら死なないだろう。なあライヤ」

ライヤ「…そう…ですね、王。」

カイ「ふざけるなよ！このくそが。勝手に呼び出しといて死ねかよ！」

「それは無いんじゃないか!？」

王「ふざけおつて…こ奴を牢屋に入れよ！」

兵「はっ！」

カイ「ふざけんなよ！てかふざけてんのはてめえだろ！はなせ、おい止めろつて」

ほんとどうなつてんだよ…

つか、これからどうなることやら…

〔牢屋〕〔？side〕

カイ「おい離せつて」

また、誰か王に逆らつて牢に連れてこられたようです…

カイ「痛！なんだよ…ここつて牢屋か…」

一体何をしたのでしょうか…人は見た目によらないとは言いますが…

カイ「なあ、そこに誰か居るんだろ」

？「え！？」

カイ「ん？女？…まだ幼いな…なんでこんなところに居るんだ？声
だけなら全く合わないぞお前みたいなのにこの場所は」

この人に私の一体何がわかるのかしら…

？「あなたこそ、なんで捕まったの？」

カイ「さあな、そっちは？」

さあなって…

？「……何よ…それ…」

カイ「何っていわれてもなあ…つか人の質問無視かよ…」

？「私の事はどうでもいいでしょ…あなたかわってるわね…」

カイ「よく言われるよ…俺はカイ、あんた名前は？」

？「………よ」

カイ「ん？よく聞こえないんだが…」

？「ハル力だつてば」

兵士「おい！うるさいぞ！」

カイ「……ん…？ハル力？普通じゃないか？なぜ恥ずかしがるんだ？」

ハル力「よく…からかわれてたから…」

カイ「へえ…大変だな、つかここから出られねえのかな…」

この人は馬鹿ですか？

ハルカ「もし私が逃げ道を知っていたらもう逃げていると思いませんか？」

カイ「そうだよな…はあ……」

この人は何を考えているんだろ…

ハルカ「逃げようなんて考えないほうがいいわよ、死ぬから」

カイ「はあ…どっちにしても死ぬならもうチョイ頑張ってから死にたいよなあ」

何をがんばるのやら…

ハルカ「もう勝手にすればいいじゃない…」

カイ「そうさせて貰いますか」

3話　く本書く異世界は波乱ばかり（中編）

人は死を目の当たりにすると強くなる…かもしれない

く牢屋く「カイside」

前回の話から1日経過

はあ…この国はつくづく腐ってるな…

昨日の間に国についてハルカから聞いたんだが…

ざっとまとめると

ダルカマイズンは現在3カ国と交戦中

簡単に終わる予定が相手が手を組んで戦況が一転したため国王がそりやあもつぶちぎれて

税は上がるはどのこのつて家計も大変

町は美しかったらしいのだが心が腐った連中が暴れてボロボロ

その結果

税が集まらない

金が減るばかり

戦争もきつくなり

国王がますます切れて兵士殺したりなんのつて…

で、親を殺されたハルカが国王を恨んで殺そうとして捕まったらしい…

カイ「はあ…」

ハルカ「スपी…zzz」

で、ついでに言うとは今は深夜2時と言った辺りかな

おれがなぜ起きてるかと言つと…

殺されるかもしれない恐怖で寝れないんです…

ハルカ「スーピー…zzz」

ハルカが恨めしいぜ…

カイ「めっちゃ疲れた…コク…」

――6時間後――

カイ「ふあああああああ、寝みい」

やばい全く寝れなかった…

兵士「ほら飯だ」

カイ「おおおおお、飯…って、これだけ？」

兵士「文句付けるなら食わなくてもいいんだぞ」

カイ「いえいえ食べますよ」

って言ってもなあ…

内容

パン1切れ

薄そうな具も無いスープ

カイ「はあ」

ハルカ「ため息ばかり吐くと幸せも逃げますよ」

幸せなんて、もうねえよ…

カイ「贅沢言えないのは分かってるんだが…」

ハルカ「なら、我慢ですよ」

カイ「はいはい」

ハルカ「ぐうううううう」

カイ「……お前、飯食ったのか？」

ハルカ「／／／一応…」

カイ「はあ…やるよ」

ハルカ「え…って、何をですか？」

カイ「俺の朝飯だよ」

ハルカ「ほんとあ？やったあ！」

カイ「兵士さん兵士さん」

兵士「ん？なんだこれは？」

カイ「俺の飯…隣のハルカって奴に」

兵士「行ってる意味が…」

カイ「いいからいいから…な？」

兵士「うむ…分かった」

カツツカツツ

兵士「ほら」

ハルカ「わーい…有難う……」

もぐもぐむしゃむしゃごくごく

ハルカ「ふうー…おいしかったです」

カイ「食つのはやつ！」

ハルカ「そうですか？これくらい普通ですよ…」

カイ「そうなのか…まあ何にせよ警戒心は薄れた見たいでよかったよ」

ハルカ「べっ…別に物につられた訳じゃ無いんだから…」

めっちゃ物に釣られたやん…

カイ「さて…どうするかな…」

カツツカツツ

兵士「おい！お前！」

カイ「ん？どした？」

兵士「王が呼んでいる来い！」

カイ「はあ…面倒だな…」

兵士「つべこべ言わずにこい！」

がちゃ

来たなこれは…

ボコ！ガス！ドカ！

カイ「案外いけるもんだな…」

ハルカ「すごい…ですね」

がさこそ

ハルカ「…何してるんですか？」

がさこそ

カイ「お！あつたあつた」

ハルカ「なにがですか」

カイ「お前もくるだろ？」

がちゃ

ハルカ「え…ありがとうございます！」

カイ「喜ぶのはまだ早い…まずはここを出ないとな…」

ハルカ「そうですね…どうしましょうか…」

カイ「あ、そうだ…ちょっと耳かせ…」

ハルカ「…なんですか？」

カイ「ごによごによ…」

ハルカ「ほんとにそんなにいけるんですか…？」

カイ「大丈夫だって…多分…」

ハルカ「多分ってなんですか？多分って！」

ガチャガチャ

カイ「静かにしろ…人が来る…」

がさがさごそごそ

がちゃ

カイ「案外熱いな…これ…」

兵士「どうした！遅いぞ！」

カイ「すいません…連れ出すのに苦労しまして…」

おい

どか

ハルカ「痛いですー離してくださいー」

カイ「黙れ！」

兵士「取り敢えずそいつだな連れ出すのは…」

カイ「はいそうです…」

兵士「まあいい、早く連れて行け！」

カイ「はっ！こい！」

ハルカ「ぶーぶー」

く城廊下、カイside

カイ「な、うまくいったろ」

ハルカ「はい！ここからどつするんですか？」

カイ「それだよな……」

俺たちは牢屋を無事に出てから城の外へ向かっているが…

カイ「ところでさあ…どこどこ？」

ハルカ「知りませんよお来てからずっと牢屋だったし…変に連れまわしたりするから…」

カイ「どうすんだよ…」

ハルカ「知りませんよ…」

どうする…どつちが外への道だ…

ガチャガチャ

カイ「やばい！隠れろ！」

ハルカ「え…」

ガチャガチャ

兵士「あいつ遅いな…王が切れてるぞ…」

兵士「あいつ死亡確定だな…」

兵士「気の毒にな…」

ガチャガチャ

カイ「ふう行くぞ！」

ハルカ「えつどつちに？」

カイ「こつちだ…」

取り敢えずここから出なきゃな…

4話 〱本書〱異世界は波乱ばかり（後編）

苦難を乗り越える事で人は成長する物だ

〱城廊下、カイside〱

えーとここまでの出来事をまとめておこう…

普通に生活する↓穴に落ちる↓異世界に来る↓牢屋にぶち込まれる

↓脱獄する↑ 今ここ

普通の生活が恋しいぜ…

なぜこんな事を言うかと言うと…

早速ピンチです！

あの後適当に城の内部を走り回ってたら…

兵士に見つかった！

カイ達は逃げた…

また兵士に見つかった！

また逃げた… e t c

的な感じで現在沢山のごつい兵士さんたちに囲まれています…

誰かたすけてください…

この際なんでもしますから！

カイ「なんて事言ってる場合じゃないよな…」

ハルカ「何をさっきから一人事をぶつぶつと…」

カイ「ところでお前戦えるか？」

ハルカ「えっ？無理ですよ！この人数相手に、それも王国兵士ですよ！」

カイ「だよな…取り敢えず黙って捕まりたくもないし…なんとかしないとなあ…」

ハルカ「なんとかってどうするんですか…」

俺が聞きたいくらいだ…

カイ「戦う…とか？」

ハルカ「なんで疑問系何ですか…いくらなんでも無理ですよ！」

カイ「いや…やってみなくちゃ分からないだろ…？」

ハルカ「分かります！」

カイ「どうだか…？」

ハルカ「……それをどこで？」

カイ「俺の格好を思い出せ」

ハルカ「なるほど！で、使えるんですね？」

カイ「ぐっ…た、たぶん」

ハルカ「たぶんってなんですか！」

カイ「たぶんはたぶんさ……」

ハルカ「私が逃げるので囿になってくださいね！」

カイ「はあ？なんでだよ！」

兵士「お取り込み中のところ……」

ザクッ

兵士「貴様！」

ザクザクザク

兵士「ぐふあ……」

ドサドサドサ

ハルカ「きゃ……」

兵士「こいつがどうなってもいいのか？」

カイ「ハルカツ」

兵士「いまだ、救援をよべ……」

ザク、ドサ

ハルカ「カイっ！落ち着いて！」

ザクっ…

兵士「ぐはぁ」

グサグサグサ！

俺は…

カイ「俺は一体何をしてるんだ！？」

っがしゃん

ハルカ「やつと元のカイに戻ったんだね…」

カイ「あ、ああ…」

一体何人殺したんだ俺は…

ガシャ

カイ「ち…に、逃げるぞ！」

ハルカ「…う、うん…無理しないでね？」

カイ「ああ」

兵士「！イタゾー！！こ、これは…おい！大丈夫か！？しっかりしろ！

兵士「くそ！バケモノめ…」

〈城外〉「カイside」

あの感覚は一体…？

ハルカ「まだくるよ！カイ！」

カイ「あ、ああそうだな…」

タタタツ

ガシャ

カイ「くそ…このままじゃ…ハルカ！お前だけでも逃げろ！」

ハルカ「いやだ！カイも一緒じゃないとや！」

ガシャガシャ

？「こつちだ…」

カイ「？ああ…」

ガシャガシャ…

カイ「はあ、助かった…ありがとな…」

？「礼には及ばん。お前ら一体何をした？」

ハルカ「…いろいろです…」

カイ「はあ…はあ…」

？「まあいい、これでも飲め」

カイ、ハルカ　ゴクッ

カイ「ふはあ…ありがとな、なにからなにまで…俺は栄西海、カイでいい、あんたは？」

リーザ「えいさい…？私はリーザ、リーザ・エレクアイナ」

ハルカ「えーと…私はハルカ・エリムイ・スターニヤです」

カイ「取り敢えずここから出たいんだが…出来れば一刻も早く」

リーザ「そうね…少なくとも今日は無理ね…」

カイ「なぜ？」

リーザ「少なくともあんな出来事起こしたあとですもの…明日の昼にしなさい」

カイ「そっちのほう危ないか？」

リーザ「だからよ…相手も昼に逃げるとは考えないでしょうからね」

カイ「なるほどな…」

リーザ「逃げる手段は私が用意するわ…」

カイ「何から何まで悪いな…」

ハルカ「本当にこの人信用しちゃうんですか？」

カイ「ああ、分かってる……でリーザさん」

リーザ「ん？なにかしら？」

カイ「幾らだ？」

リーザ「わかってるじゃない、と言いたかったけどあいにくお金には困って無いのよね…」

カイ「じゃあなにが望みだ？」

リーザ「ふふふ」

カイ「なにが面白い？」

リーザ「ふふつまあ今日はここでゆっくり休んで…」

カイ「おいまだ話は終わって…」

リーザ「人の親切はありがたくもらっておくものよ」

カイ「ああ…分かった」

「宿屋・アラリスの羽根、7号室」〔カイside〕

なんなんだあの人は…

それよりも俺…今日、人を殺したんだよな…この手で…

やらなきゃやられてたのは分かってる、わかってるけど…

くそっ何なんだこのもやもやな感じは…

5話　く本書く世界の崩壊と共に冒険は始まる

少年が悩み苦しむ時、世界は崩壊を始める…

く宿屋・アリスの羽根、7号室く「カイside」

………さい

………てください！

ハルカ「おきてください！」

寝みい…誰だ…

カイ「まだ寝かせてくれよ…」

ハルカ「忘れたんですか！？私たち追われてるんですよ！」

がばっ！ごっつ！

カイ「いた…」

ハルカ「いたた…」

へなへな……ばたっ！

カイ「おい、ハルカ！大丈夫か！？」

ハルカ「……………」

「1時間後」

「宿屋・食堂、カイside」

ハルカ「いたいです」

カイ「だから悪かったって」

リーザ「お前たちは朝から何をやっているんだ…」

カイ「何ってナニ？」

ハルカ「馬鹿じゃないですか！？ナニって何ですかナニって！」

カイ「まあそんなことは置いて」

ハルカ「置いてかないでくださいよ」

カイ「これからどうする？」

リーザ「くくくっ…お前らを見てると飽きないな…まず朝御飯でも食べるか」

カイ「そうさせて貰うか…」

ハルカ「いいんですか？こんな事してて…」

カイ「飯も食わないでどうやって逃げるんだ？」

リーザ「逃げてる途中に倒れたらどうする？」

ハルカ「でも…」

カイ「俺は食ってから行く、いらなら無理して食つなよ」

リーザ「おこるのは私なだけだな…」

ハルカ「カイさんが食べるなら私もたべますよ」

リーザ「ふふっ」

〈辺境の村・ドルマイカ村〉「????side」

????「!?!? 一体何があった？」

兵士「分かりません…」

これはあまりにむごすぎる…

兵士「自分たちが来た時にはすでに…」

????「取り敢えず生存者は？」

こんな状況で居るのか…?

しかしなんでこんな…

村一面が血の海だなんて…

兵士「今現在確認中ですが…おそらく居ないものだ…」

???「分かった、発見し次第報告しろ」

兵士「はっ！」

くそ…これで何件目だ…最近になって幾らなんでも多すぎる…
国民の不安をこれ以上増やすわけには…

兵士「アルサウム隊長！逃げて…」

どか！

アルサウム「！」

何だ…あれは…

あれがこれをやったのか…？

アルサウム「全員退避しろー！」

兵士「うわああああ」

グサ

グチャ

ブチ

ザク

アルサイム「くそっ！ここは俺が引き留める！お前らは逃げてこの事を騎士団長に伝える！」

兵士「しかし…」

アルサイム「聞けないのか！？これは俺からの命令だ！」

兵士「……っは！」

スタスタスタ

アルサイム「ここからが正念場だ…さてどうするかな…」

モンスター「グギヤアアアアアアアアア」

アルサイム「くらえっ」

キン

アルサイム「これ…勝てるのか…？」

-. -. -. -. -. 三時間後 -. -. -. -. -.

アルサイム「おりゃ！」

ザク

アルサイム「やったか…？」

モンスター「グギヤアアアアアアア」

ドサッ

ドン

アルサイム「なっ！もう一体いただと…」

モンスター「グギャアアアアアアア」

あいつらは今頃王国にたどりついてるよな…

なら俺の役目ももう終わりか…

ここで終わるなんてな…

???「アルサイム、そこで見ている！」

アルサイム「……？」

この声は…騎士団長…？

騎士団長「貴様には逃げる場所も無いだろう…だがしかし、私の部下を傷付けたこと許しはしない！」

ヒュン…グサ！

モンスター「ギャアアアアアア…」

ドサ

騎士団長「安らかに眠れ…」

兵士「団長！これは一体…」

騎士団長「見ている暇があるなら治療をしてやれ！」

兵士「はっ！」

アルサイム「流石です…コリム騎士団長」

コリム「貴様も良くやった、あれを一人で抑えたのだろう」

アルサイム「有り難きお言葉」

だが、さっきの奴らは一体…

（酒場・ロイスター）「カイス・サイド」

カイ「もぐもぐ」

リーザ「どうだ？」

ハルカ「おいしいです！」

リーザ「口に合って何よりだ」

男A「…おい聞いたか？」

男B「なにを…？」

男A「またあつたらしいぞ、あの事件」

男B「またか…おちおち旅もできねえな」

カイ「……？あの事件？」

リーザ「村の人間が一人残らず殺される事件の事だ」

ハルカ「え？どうしてですか？」

リーザ「なんでも魔物に襲われたらしい…」

魔物に襲われて全員死亡？何かおかしいぞ…

カイ「それで…なんで全員殺されてる？」

リーザ「そこがおかしいんだ…」

ハルカ「確かにへんですね…」

リーザ「気を付けた方がいいな」

カイ「ああ、そうだな。用心するに越したことはないしな」

リーザ「そろそろ時間だ、いくぞ」

カイ「ああ」

「ダルカマイズン国・南城壁」〔カイside〕

本当にこれで行けるのか…

まあ疑っても仕方ないけどな…

兵士「その馬車、止まれ」

いきなり捕まったぞ…

リーザ「何でしょう?」

兵士「何の目的だ?」

リーザ「少し一人で旅でもしようと思いましたがね…」

兵士「そうか…最近はある事件も起きてるし気を付けろよ」

リーザ「そうですか…ご忠告有難うございます…」

兵士「次!」

カイ「本当に通れたな…」

リーザ「言っただろう。でお前らどうするんだ?」

カイ「近くの村まで歩いて行こうと思ってる」

リーザ「場所は分かるのか?」

カイ「……全然」

リーザ「送るよ」

カイ「それは悪いな…何から何まで」

リーザ「お前らをここで置いてくのは気が引けてな」

カイ「すまない」

- - - - -

というわけでカイたちは無事外に出られた…

リーザさんの力によって…

でもまだカイたちに降りかかる災難を知る者はだれ一人いなかった

…

6話 く本書く冒険の始まりは蹟くものだ

少年に対する世界の仕打ちは余りに酷だった

く辺境の森・南ダルカマイズンの森く「カイside」

馬車で城から逃げられたのはいいんだけど…

カイ「リーザ？本当にこっちで合ってるのか？」

リーザ「合っているはずだ、私を疑っているのか？」

カイ「別に疑っている訳では無いけど…」

だってねえ…なんかどんどん深いところに行ってるし
道がもはや道じゃないっていうか

よくこんな場所を馬車で走ってるな…て感じだしさあ

ハルカ「ねえ、カイさん、あれ！見てください！」

カイ「ん？何だ？もしかしてまたか？」

ハルカ「その、たぶん…」

カイ「そのまさかだろ…リーザさん」

リーザ「すまない…どうやらまた魔物の巣に入ってしまったようだ
…それと言ってるだろ私の事は呼び捨てでかまわないと」

カイ「そんな事今はどうだっていいだろ」

リーザ「どうしてもよくは無いぞ………」

どうやら大変な事になってしまったようだ…

ここまで進んで来て分かった事がある…

リーザさんは槍使いだ。結構強い

そして、重度の方向音痴だ…

ハルカ「どうするんですか！？またですよ。私、戦えませんよ！カイさん！私の盾になってください！」

カイ「お前はどこまで俺を身代りにするつもりだ！何回目だとおもってるんだ！？少しは自分の身でも守れ！そして落ち着け！」

そう、実はこんなやり取りはかれこれ十五回目だったりする…
ついでに城を出てからもう二日もこの森で迷っていたりする…

リーザ「本当に仕方がないな…お前たちは」

カイ「あんたが元凶だろ！」

リーザ「つべこべ言っていると食われるぞ！」

カイ「どうせあんた一人で済むだろ？」

さつきから襲ってくるものは

ウルフ…オオカミのデカイ版

ゴブリン…意味不な小型の人型

ぐらいのやつらだ

リーザ「いや、今回は想像以上に数が多い、て言うか私はこれでも女だぞ！男なら体を張って守ろうとしないのか！？」

今回はウルフが五体程いる…

カイ「確かに今回は俺も戦うか…でも俺が今出来る戦いと言えば…当たるかわからんぞ？」

リーザ「お前たちの武器をちゃんと用意しなかった私が悪いと思うが、いいから戦え」

そう、俺の手には今武器と言えるものはこれしかない！
いばって言える事じゃないけどな

リーザ「おい！そっちへ行つたぞ！」

カイ「当たれ！」

ヒュッ

サク！

モンスター「クキャン」

これが結構難しい、

今のはたまたまうまく行つたんだが
さっき練習してたんだが五回に二回くらいは失敗する…

リーザ「おい！また私がほとんど殺したじゃないか！」

カイ「仕方ないだろ！結構難しんだぞ！つかこんなに早くものにしたら俺をほめて欲しいくらいだね」

リーザ「なんだ？褒めて欲しかったのか？案外子供だな」

カイ「そういう訳じゃない」

実はこの馬車に「弓初級編」とかって本があって

それにさっき使った弓の使い方が書いてあったんだよな

でそれを使えるようになるのに寝ないで頑張ったせいで今ものすごく眠い

カイ「あんたと話していると本当疲れるな。寝るわ、じゃあなお休み」

リーザ「私だって疲れてるんだぞ！」

カイ「あんたまだまだ元気だろ！」

リーザ「カイだって元気じゃないか」

カイ「最近寝てないんだぞ！」

リーザ「私も寝てないぞ」

カイ、リーザ「ジロツ」「」

ハルカ「ギクリッ」

カイ「ハルカ、お前いつも寝てたよな？」

リーザ「今日くらい寝なくても大丈夫だろ？」

ハルカ「不眠はお肌の敵ですよ」

リーザ「なら、私は寝てもいいな、女だし」

カイ「セコイぞ、俺だって寝たい。つか誰のせいでこんな事になつてると思ってるんだ！そもそも俺は馬車を操作できない」

リーザ「仕方ない、今日はこころへんで野宿にしよう」

カイ「ああ、そうだな」

ハルカ「料理は私が作りますから」

カイ「当たり前だ、材料は…ウルフの肉でいいよな。丁度あるし」

ハルカ「じゃあ作るので待っててください」

カイ「じゃあ俺が辺り見てるからあんたは寝たらどうだ」

リーザ「ああ、そうさせて貰う。では」

カイ「ああ、おやすみ」

ふう…

こつちの世界に来てからもう大分たつた感じがするな…

なんか色々あつたな…

牢獄にぶち込まれたり

兵士に追いかけられたり
俺なんか悪い事したのか…？
まあ疲れたけど楽しいっちゃたのしいけど
こんなに頻繁にはいらないな
これからは少しでも落ち着いてほしいな
たぶん変わらないんだろうけどな…

ガサッ

カイ「ん？なんだ？」

とりあえず弓しかないしもってつと

ドサッ

ん…あの影は…人？

カイ「おい！あんた大丈夫か？」

「…」

カイ「くそ…」

だれなんだ？このごつい鎧は…

カイ「…よっこらせつと」「

重い…

ドサッ

ハルカ「……………♪~~~~♪……！どうしたんですか。その人！」

カイ「分かんが落ちてたんだよ……」

ハルカ「……………」

リーザ「どおした？いきなり騒がしく……誰だそれは？」

カイ「わからん」

リーザ「どうするんだ？それ」

カイ「様子見て返すさ、悪い奴だったら……」

リーザ「まあ用心するに越したことはないしな」

どうしていつも問題ばかり起きるんだか……

こっちに来る前からこんな感じだった気が……

まさかな……

ふああ、寝みい……

カイ「ZZZZ……」

『現世・過去』

〔雨宮市・繁華街〕〔カイside〕

レイ「カイ、なにしてたんだ？こんなとこついてこいだなんて。おま

えついに…結婚か？」

カイ「んな訳あるか！母さんの誕生日だよ、誕生日！」

レイ「からかっただけだろ、ムキになるなっ」

カイ「まったく結婚近いのはお前のほうだろ？」

レイ「まさか、俺はしたいと思ってるけどな、あいつはまだはいってさ」

カイ「年齢的にまだ無理だ、今は諦める」

まあ誕生日プレゼントにアクセサリーかなんかをあげようとおもってアクセサリーショップの指輪コーナーに居る

カイ「おれ良く分かんないからさ何がいいと思う？」

レイ「ばあの趣味なんざ分かるかよ…なんでもいいんじゃない？」

カイ「なんでもいいが一番困る回答だとお前は知らないのか！？」

レイ「知るかよ、つか聞かなかったのか？」

カイ「一応聞いたけどさあ、なんでもいいそうで…」

レイ「じゃあさ、本当に何でもいいから貰えるだけで喜ぶか試そうぜ？な」

カイ「お前って本当、最悪だよな」

レイ「買うもの決まらないならいいだろ別に」

カイ「まあそれもそうか、だな」

レイ「じゃあさお婆さんの嫌いな物って何だ？」

カイ「聞かないな……」

レイ「ん〜確かに、見た感じからも分からん、仕方ないしオー
ドソックスに…これとかいいんじゃない？」

カイ「ぶっ！キモ。やけにリアリティあるあたりこええな」

レイ「だろ？これなら面白いだろ？な！」

カイ「そうだな…これにするか」

カイ「すいません！これください、プレゼントなので箱がなんかに入
れてくれませんか？」

店員「はい？…かしこまりました…？」

レイ「くくくっ」

カイ「おい、レイ！笑うなよ！恥ずかしかったんだぞ！」

レイ「本気になるやついるかよwくくっ」

カイ「お前、殺すぞいい加減！」

レイ「やってみろよ、凡人」

カイ「おまえなあ！表ででろや！」

レイ「上等だ凡人！」

店員「お客様、出来上がりました、8700円になります」

カイ「高！まあはい」

店員「有難う御座いましたー」

カイ「おい、なんだよ8700円って、ふざけてんのか？」

レイ「さっきも言ったようにふざけてます」

カイ「本気で殺す、本気と書いてマジでなあ」

ぴろりろりん

レイ「やばっこんな時間だ！俺行けねえわ。代わりに渡しといてくんね？ほらよっ」

ひゅっ

パスッ

カイ「ん？いつ買ったんだよ！」

レイ「まあいいじゃん…そんなことよりじゃあな」

カイ「ああ、じゃあな」

帰るか…

くカイの家く「カイス ide」

カイ「ただいま」

母「お帰り」

カイ「ほらよプレゼント、それとレイからも」

母「あら悪いわねえ、あけていいかしら？」

カイ「当たり前だろ、開けなきゃ中わからないだろ？」

母「それもそうね…」

がさがさ

母「きゃーなにこれ！」

カイ「ぷぷ」

母「かつわいいー有難うね」

カイ「ウソだろ…マジかよ…」

母「それじゃご飯にしましょ」

どうなってるんだか…

『異世界』

〈辺境の森・南ダルカマイズンの森〉「カイスid」

元気でやってるかな…

心配とか…してないよな…まあ自分で言うのもなんだがしてる…よな
つか、問題が連続で起こるのはこっちに來てからかな…

リーザ「おい、自分で拾ってきておいて無責任じゃないか？」

カイ「んあ？なにが？」

リーザ「あれだよあれ」

カイ「ああ、そうだったな」

やばいやばい、完全に忘れてた…
現実逃避は良くないよな…ははは…
つかほんとにあれどうしよう…
早くおきないかなあ…

7話　く本書く問題は立て続けに…（前編）（前書き）

今回は説明が多めです

あとで変わるかもしれませんが…（－；）

7話 く本書く問題は立て続けに…（前編）

少年にとってこの世界は余りに理不尽だ

く辺境の村・ロカムサ村く「カイside」

なんだかんだあつて森を抜け村に着いたわけだが…

カイ「こいつ、いつまで寝てるんだ？」

リーザ「さあな？」

ハルカ「カイさんが拾ったんじゃないですかちゃんと処分してくださいよ」

カイ「処分て…まあ診療所にでも預けるか…」

リーザ「診療所は私が見つけておくから…」

カイ「ああ、俺は宿をさがすよ」

リーザ「よろしく頼む」

ハルカ「私は何をすれば…」

カイ「どつちに着いて行く？」

リーザ「私は一人で探すさ」

カイ「だそうだ、行こうぜ。リーザさん、日が暮れ始めるまでにここで集合でいいか？」

リーザ「ああ、それと私の事は呼び捨てで構わないと…」

カイ「分かってるって、じゃあまた」

リーザ「また」

カイ「ふう…なんか静かだな…」

ハルカ「のどかですね」

カイ「そうじゃない、やけに静かすぎないか？」

ハルカ「そういえばそうですね」

カイ「んゝまあいいか、ところでさお前って何歳だ？」

ハルカ「女性に年を聞くとは…いい度胸ですね」

カイ「俺と対してかわらなそうだけど、女性か…ふむ…20越えか？」

ハルカ「私はまだ16です！」

カイ「16か…意外だな」

ハルカ「意外って何ですか意外って！」

カイ「16で捕まるんだな〜って」

ハルカ「……………そういうカイさんは何歳なんですか？」

カイ「俺は…17だぞ」

ハルカ「えっ…私の一個上だったんですか？」

カイ「そうだな」

ハルカ「てつきり20超えてるかとかばかり…」

カイ「そんなに老けて見えるか？」

ハルカ「いえ、行動力が結構あったので…」

カイ「人は命がかかれば必死にもなるさ」

ハルカ「ですね…」

カイ「何しに国に行ったんだ？」

ハルカ「あ！そうでした…」

カイ「？どうした？」

ハルカ「私、学校に行く途中だったんです…」

カイ「はあ？いつまで着けばいいんだ？」

ハルカ「捕まった時が丁度緑の第二の月だったから…」

カイ「緑の第二の月？」

ハルカ「知らないんですか？」

カイ「ああ、少し事情があつてな」

ハルカ「じゃあ説明しますね」

新年が明けてから順番に

緑の月

赤の月

黄の月

青の月

となっていて

それぞれ第一から第三までの三つの月になっています

第一〜第三はそれぞれ30日ずつになっています

ハルカ「分かりましたか？」

カイ「ああ、わかった。ありがとう、それでいつまでに行かなきゃいけなかったんだ？」

ハルカ「赤の第一の月までです」

カイ「あと二カ月つてどこか…どれくらいかるんだ？」

ハルカ「そんなにかからないと思いますが…でも国またぐので…」

カイ「どこの国なんだ？」

ハルカ「カインド国です」

カイ「カインド…って？」

ハルカ「国についても知らないんですか…」

カイ「いろいろあつてね」

ハルカ「じゃあ説明しますね」

中央大陸バルスナにあるバルスナ光国

その周りに六つの大陸があります

北の大陸グランチスナにあるフタンバ双国、スターリア王国

東の大陸マイズンにあるダルカマイズン帝国、カインド法国

南の大陸キランにあるキランスタード公国

西の大陸クラナスにあるクラナンドエタニス商国

極北の大陸

南西の大陸

になっています

ハルカ「なので大陸は超えませんが…」

カイ「そうか、あんまり時間無いな…急ぐか…」

ハルカ「急ぐって…行くんですか？」

カイ「お前を送らないとな…」

ハルカ「有難うございます」

カイ「間に合えばいいけどな…」と

ハルカ「？どうしたんですか？」

カイ「宿発見」

ハルカ「え？ああ、そうですね…いきますか？」

カイ「そりゃ…勿論」

〔宿屋・ロニの風〕〔カイside〕

カイ「ここでいいか？」

ハルカ「あいてますかね…」

カイ「聞いてみるか…すいませーん」

宿屋のおばさん「はい！ああお客さんか…」

カイ「ん…？、宿取れますか？部屋二つなんですけど」

宿屋のおばさん「一人部屋をかい？」

カイ「二人部屋で…連れが居るんで」

宿屋のおばさん「あいよ、何日だい？」

カイ「んゝあんまり長くは無いと思いますが…」

宿屋のおばさん「取り敢えず一泊700Snだよ」

カイ「ああ、わかった」

ハルカ「お金について分かるんですか？」

カイ「いやまったく…」

ハルカ「……」

カイ「教えてくださいハルカ先生」

ハルカ「ごほん、では説明しますね」

お金は

一番小さいものから

シー(S)

シナー(Sn)

シナリー(Sr)

ハンドラ(H)

ハンドラント(Hn)

で

100S=1Sn

1000Sn=1Sr

1000Sr=1H

10000H=1Hn

です

だいたい一般の庶民の月給が20\$位です

カイ「ふむふむ有難う」

宿屋のおばさん「でどうすんだい？」

カイ「借ります、後でまた来ます」

ハルカ「待ち合わせ場所に行きましょうか」

カイ「そうだな、いくか」

（辺境の村・ロカムサ村、広場）（カイスide）

ざわざわ…

ざわざわ…

ハルカ「？騒がしく不是吗？」

カイ「あっちの方が行ってみるか・・・」

ざわざわ

カイ「いったいなにか？」

ハルカ「え・・・」

カイ「なんだよありや・・・」

リーザ「お前たち……」

カイ「リーザ？なにがあつたんだ？」

リーザ「良く分からない……」

カイ「……………ツチ」

そして事件は起こった

8話 く本書く問題は立て続けに…（後編）

出会いと別れはいつも同時に…

くロカムサ村、広場く「カイside」

グオオオオオオオオオオオオ！

カイ「なんでこんな所にモンスターが？」

リーザ「分からないが…」

カイ「くそつ、せめて武器でもありや…」

リーザ「カイ、剣は使えるか？」

カイ「あ？ああ一応な」

リーザ「ほら」

カイ「これは？」

リーザ「さっき助けた兵士の剣だよ」

カイ「なるほど…」

リーザ「行くぞ」

カイ「ああ」

シュツ…

ダンッダン

カイ「ク…」

あぶねえ…なんだよあいつ、あんな体つきしといてあのそくどかよ…

カイ「そりゃ」

キンッ

カイ「なっ…」

シュツ…

リーザ「カイ！無事か？」

カイ「ちっ…分が悪いな…」

リーザ「せめて魔法使いが居ればな…」

カイ「魔法？」

リーザ「魔法をつかってあいつの防御を下げれば…」

カイ「硬いからな」

リーザ「それか燃やせれば…」

カイ「火が弱点なのか？」

リーザ「ビッグベアは火に弱い」

カイ「火、火かあ……ハルカ？どこだ！？」

リーザ「！」

カイ「あそこか！」

タタタツ

カイ「そりゃ」

キンツ

カイ「ハルカ？無事か？」

ハルカ「カイ…怖かった…」

カイ「なあ、魔法使えないか？」

ハルカ「使えませんよ」

カイ「軽い火でいいんだ」

ハルカ「それくらいなら…」

カイ「じゃあ、俺があいつの周りに藁を撒くから燃やしてくれ」

ハルカ「はい…」

カイ「リーザ！もう少し引きつけててくれ」

リーザ「ああ、だが余りもたないかもしれんぞ…」

カイ「1分でいいんだ、頼んだぞ」

えーと…

カイ「あつた…うんしょ」

がさがさ

カイ「リーザ！こつちだ」

リーザ「？、ああ」

カイ「ハルカ！」

ハルカ「生命の源、生命の火、燃え上がれ！ フレイム」

ゴオオオオオ

メラメラ

グアアアアアアア

カイ「やったか…」

リーザ「まだだ……く、」

グガアアアア

ザシュ

リーザ「ぐはっ……」

カイ「リーザ！……ッ」

グアアアアアアア

???「お前ら！屈め！」

カイ「！？」

???「炎よ、光よ、我に仇なすものを焼き切る刃を！　ファイヤ
ーブレード」

ボウ！ブアアアア！ザクッ！

グギアアアアアア

ドサっ！

???「……………」

カイ「リーザ！大丈夫か？今、助けるから……」

リーザ「……うっ」

???「どけっ、少年！」

カイ「!？」

???「……………光よ、このものに光の治癒を エイド」

フワアアアア

リーザ「う…うう」

???「まだ動くな、少し寝ている」

リーザ「……………」

???「取り敢えず運ぶぞ」

〈病室〉「カイス ide」

カイ「助かりました…」

???「いや、礼を言うのはこちらの方だよ」

カイ「え？」

???「私が森で倒れてたろ…」

カイ「あ…ああ」

???「本当に助かった」

カイ「いや別に…剣借りたしな」

???「少年、名は？」

カイ「カイ、そっちは？」

アルサウム「アルサウム・エンダインだ…一応王国騎士だ」

ハルカ「王国騎士が倒れる相手って…」

アルサウム「それは…また後で話そう、ところでどこに向かってるんだ？スターリア王国には行くか？」

カイ「いや…カインドに向かってる」

アルサウム「カインドかなにしに？」

カイ「学校に行こうと思ってな…推薦が来たものでな」

アルサウム「ふむ…ならカインドまで一緒に行ってもいいか？」

カイ「構わない、むしろ有り難いくらいだ。よろしくな」

アルサウム「こちらこそ」

リーザ「ん…」

ムクッ

カイ「リーザ！大丈夫か？」

ハルカ「リーザさん…良かった…」

リーザ「ここは…？」

カイ「病室だ…」

リーザ「そうか…」

カイ「無理するなよ」

リーザ「むしろ良い位の体調だよ…」

カイ「そうか…」

リーザ「ところでそいつは？」

アルサイム「私はアルサイム、しがない騎士さ…」

リーザ「ふむ…」

カイ「カインドまで一緒に行く事になった、いいか？」

リーザ「お前がいいなら構わんよ」

カイ「そうか…良かった」

そうして出会った新しい仲間とともにカイ達はカインド国へ向かった…

.....

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4487r/>

世界の終末は何処からともなく...

2011年10月8日20時43分発行